

横浜わたなべ消化器内科・内視鏡クリニック鶴見院



院長
石部敦士 先生
(平成13年卒)

2001年（平成13年）卒業の石部敦士です。

この度、2024年6月に鶴見駅近くで「横浜わたなべ消化器内科・内視鏡クリニック鶴見院」を開院し、院長に就任いたしました。2003年に第二外科へ入局して以来、横浜市立市民病院、横浜赤十字病院、済生会南部病院、掖済会病院、藤沢市民病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、そして附属病院と、多くの病院でご指導いただきました。医局の先生方や患者さんに支えられ、ここまで消化器外科医として邁進してこられたことに深く感謝申し上げます。

センター病院・附属病院での勤務が12年間にも及び、外科医人生の半分以上を大学で過ごすことになるとは、まったく想像しておりませんでした。外科医として大きな転機となったのは、2015年に県内で初めてロボット直腸癌手術を導入したことです。当時はまだ保険収載されておらず、臨床研究として手探りでスタートでしたが、関連病院へのロボット手術指導や後輩の育成、学術活動は非常に貴重な経験となりました。このような機会をくださった遠藤教授をはじめ、医局の先生方には大変感謝しております。

さて、今回開院したクリニックは、渡邊一輝先生が院長を務める本院（横浜わたなべ内科・内視鏡クリニック根岸院）の分院としてオープンしました。消化器領域、特に内視鏡検査に特化したクリニックとなっています。外科医が内視鏡検査を行う機会は少なくなりましたが、私は幸運にも10年以上、港北肛門クリニックの山腰先生にお世話になった経験があり、退局後すぐに開院へと踏み切ることができました。鶴見区は横浜市の中でも3番目に人口が多い地域ですが、内視鏡検査を行えるクリニックや施設がまだ少ないのが現状です。そのため、近隣のクリニックの先生方からも、迅速に内視鏡検査ができる当院を重宝していただいております。

当クリニックのコンセプトは、「胃がんや大腸がんで苦しむ人をゼロにしよう!」です。外科医の仕事が減らしてしまうことになり、恐縮ではありますが、一人でも多くの方に内視鏡検査を受けていただくために、院内はホテルのような内装にしました。下剤内服のためのトイレ付き完全個室や、検査後のカフェスペースなども設け、初めて検査を受ける方でも安心し、リラックスして検査を受けていただける環境を整えています。すでに何人かの医局の先生方にもご利用いただき、ありがとうございます。

急な開業となり、医局の先生方、特に大腸グループの先生方には大変ご迷惑をおかけしました。しかし、より多くの患者さんの未来を明るくものにできるよう、これからも全力を尽くしてまいります。今後とも、どうぞよろしくご厚意申し上げます。

医院データ

- ◆ 医療機関名称
横浜わたなべ消化器内科・
内視鏡クリニック鶴見院
- ◆ 所在地
〒230-0051
横浜市鶴見区鶴見中央1-31-2
シークレイン 209-2
- ◆ 電話番号
045-900-4824
- ◆ 公式サイト
<https://www.tsurumi-naishikyo.com/>



アクセスマップ

